

# 大野郷遺跡

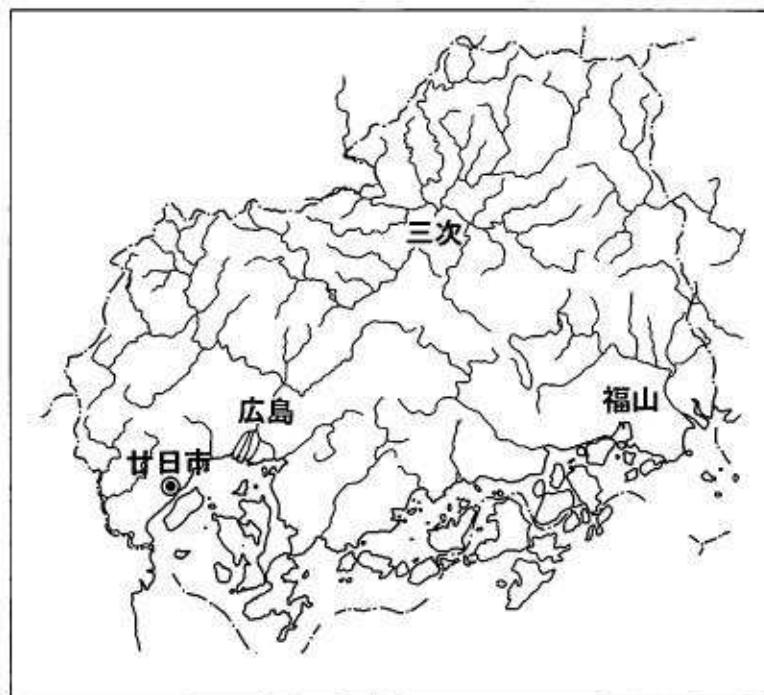
大野町中央地区土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

2006

財団法人 広島県教育事業団

# 大野郷遺跡

大野町中央地区土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書



(●: 遺跡の位置)

2006

財団法人 広島県教育事業団

## 例　　言

- 1 本書は、平成17年度に調査を実施した大野町中央地区土地区画整理事業に係る大野郷遺跡（広島県廿日市市大野4590番地外）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は大野町（現廿日市市）との委託協定により財団法人広島県教育事業団埋蔵文化財調査室が実施した。
- 3 発掘調査は鍛治益生、唐口勉三が担当した。
- 4 出土遺物の整理・復元・実測・図面の整理・写真撮影は鍛治を中心に埋蔵文化財調査室の職員が行った。
- 5 本書はIIを唐口、その他は鍛治が執筆し、編集は鍛治が行った。
- 6 出土した石製品の石材は、考古地質学研究所 柴田喜太郎氏の肉眼鑑定による。
- 7 図版の遺物番号と挿図の遺物番号は同一である。
- 8 本書に使用した北方位はすべて平面直角座標第III座標系北である。
- 9 第1図は国土交通省国土地理院発行の1:50,000の地形図（厳島・広島）を使用した。

## 目　　次

I	はじめに	(1)
II	位置と環境	(2)
III	調査の概要	(5)
IV	出土の遺物	(8)
V	まとめ	(16)

## 表　　目　　次

第1表	大野郷遺跡出土遺物観察表1(土器類)	(14)
第2表	大野郷遺跡出土遺物観察表2(石器類)	(15)

## 挿図目次

第1図 大野郷遺跡周辺遺跡分布図 (1 : 50,000) ······	(3)
第2図 調査区位置図 (1 : 1,000) ······	(5)
第3図 遺物包含層上面検出図 (1 : 150) ······	(6)
第4図 調査区土層断面図 (1 : 60) ······	(7)
第5図 出土遺物実測図1 (1 : 3) ······	(10)
第6図 出土遺物実測図2 (1 : 3) ······	(11)
第7図 出土遺物実測図3 (1 : 3) ······	(12)
第8図 出土遺物実測図4 (1 : 3, 1 : 1) ······	(13)
第9図 大野郷遺跡周辺地形図 (1 : 7,500) ······	(17)

## 図版目次

図版1-a 遺跡遠景 (北西から)	図版3-a 調査区南東壁 (北西から)
図版1-b 同 上 (南東から)	図版3-b 同 上 (北西から)
図版1-c 調査前近景 (北東から)	図版3-c 調査風景
図版2-a 調査区全景 (上層) (北東から)	図版4 出土遺物1
図版2-b 同 上 (下層) (北東から)	図版5 出土遺物2
図版2-c 調査区北東壁 (南西から)	図版6 出土遺物3

## I はじめに

大野郷遺跡の発掘調査は、大野町中央地区画整理事業に係るものである。本事業は、廿日市市大野町(旧佐伯郡大野町)の中央部に位置する本地域の道路や公園等の公共施設を一体的、計画的に整備することにより、都市基盤の整備と健康で文化的な都市生活及び機能的な産業活動の確保を図る目的で計画されたものである。

大野町は、平成 7 (1995) 年 7 月、当該事業地内の文化財の有無及び取扱いについて、大野町教育委員会（以下、「町教委」という。）と協議した。町教委と広島県教育委員会（以下、「県教委」という。）はこれを受けて現地踏査を行い、同年 7 月 9 月に大野町に試掘調査が必要な箇所が存在する旨を回答した。その後、町教委は平成 16 年 3 月試掘調査を実施し、本遺跡の存在を確認したことから、このことを大野町に通知した。大野町は同年 8 月に「埋蔵文化財発掘の通知」を県教委に提出し、県教委は同年 9 月、事前に発掘調査が必要である旨大野町に通知した。

これを受けた大野町は、平成 17 年 2 月 16 日付で財団法人広島県教育事業団埋蔵文化財調査室（以下、「教育事業団」という。）に大野郷遺跡の調査依頼を行った。大野町と教育事業団は同年 4 月 4 日付で委託協定を締結し、同年 4 月 11 日から 4 月 28 日までの間、発掘調査を行った。

なお、大野町は平成 17 年 11 月 3 日、宮島町とともに廿日市市と合併し、廿日市市となった。

本報告書は、以上のような経緯のもとに行なった発掘調査に成果をまとめたものであり、今後の埋蔵文化財の資料として、また本地域の歴史の一端を解明する手がかりとして、少しでも寄与できれば幸いである。

なお、発掘調査にあたっては廿日市市大野中央区画整理事務所、廿日市市教育委員会及び地元の方々の多大な御協力をいただいた。末筆ながら記して感謝の意を表します。



## II 位置と環境

大野郷遺跡が所在する廿日市市大野町（旧佐伯郡大野町）は、広島市の西南約20kmに位置し、東側は大野瀬戸を挟んで厳島（宮島）と対峙している。旧町域は東西約12km、南北約14kmを有し、その約8割が山地形で、これらの山が大野瀬戸に迫る状況を呈している。このため平野部は少なく、永慶寺川流域の狭隘な谷底平野や毛保川・永慶寺川河口付近の近世以降の埋め立てによる平地部がみられる程度である。

なお、永慶寺川流域の谷底平野は古代山陽道や近世西国街道が東西に通過する陸路の要衝で、この地域に所在する高畠地区は古代山陽道の「<sup>おおの</sup>濃於駅」に比定されている。

さて、縄文時代の遺跡を中心に大野町内の遺跡を概観すると、縄文早期の土器が採取された大野東中学校遺跡や局部磨製石斧が出土した觀音遺跡などが知られる。また、本遺跡の北西側に近接する郷貝塚は2度にわたって発掘調査が実施され、縄文土器・スクレーパー・楔形石器などが若干出土しており、縄文時代における本遺跡との関連が想定される。

つぎに、大野町周辺の広島湾岸地域の主な縄文時代の遺跡について簡単に触れておきたい。

大野瀬戸を挟んだ対岸の旧佐伯郡宮島町内では、数箇所の縄文時代の遺跡が確認されている。このうち大野瀬戸側では大江遺跡、下室浜遺跡、上室浜遺跡、多々良瀬遺跡、大なきり遺跡、また内海側では入浜遺跡、腰細浦東遺跡などの縄文時代遺物包含地が知られている。いずれも遺跡としては散発的な状況を呈しており、またきわめて海浜部に近接した狭い範囲での確認である。

旧廿日市町内では黒岩遺跡、速谷神社境内遺跡、地御前南遺跡などの存在が知られている。このうち黒岩遺跡や速谷神社境内遺跡はかなり内陸部に位置する遺跡で、縄文土器や石器類が出土している。これに対して、地御前南遺跡は海浜部に近接する遺跡で、現状では標高3m付近に位置し、その地表下3m前後（現海水面前後）から縄文時代前期・中期の包含層と縄文時代後期の包含層が確認され、縄文土器・石器・動物骨・魚骨・貝類などが出土している。この遺跡の立地等は本遺跡と類似しており、両遺跡の対比検討も必要であろう。

また、広島市域を見ると佐伯区内では円明寺遺跡・利松住吉遺跡・五日市小学校校庭遺跡などがある。円明寺遺跡は五日市の平野部を望む台地先端付近に位置する遺跡で、縄文時代早期の押形文土器や後・晚期の時期の遺物が出土している。利松住吉遺跡は丘陵先端部に位置する遺跡で、縄文時代早期の遺物包含層が確認されている。また、五日市小学校校庭遺跡は標高約6mで現表下1.3mに縄文時代の遺物包含層があり、主に後期から晚期の遺物が出土している。この遺跡は当時内海に近接するか、あるいは島状になっていたと考えられる。

その他、広島市域では比治山貝塚（南区）・牛田早稻田山遺跡（東区）などが知られている。比治山貝塚は標高約10mで、現表下0.3~2.5mの間に3つの貝層及び包含層があり、主に縄文時代後期から晚期の土器が出土している。この遺跡についても縄文時代当時、瀬戸内海に浮かぶ島であったと想定できる。



- |         |         |            |           |          |           |
|---------|---------|------------|-----------|----------|-----------|
| 1 大野郷遺跡 | 2 郷貝塚   | 3 大野東中学校遺跡 | 4 観音遺跡    | 5 地御前南遺跡 | 6 大江遺跡    |
| 7 下室浜遺跡 | 8 上室浜遺跡 | 9 多々良潟遺跡   | 10 大なきり遺跡 | 11 入浜遺跡  | 12 稲細浦東遺跡 |

第1図 大野郷遺跡周辺縄文時代遺跡分布図 (1 : 50,000)

あったと想定できる。

ところで、山口県南東部の熊毛郡平生町所在の岩田遺跡は縄文時代中期頃から弥生時代前記頃の遺跡で、本遺跡と遺跡の立地状況や遺物の内容に類似した点があげられる。

岩田遺跡は標高 8m の海浜部近くにあり、現地表下 3m 付近の包含層中から主に縄文時代後期から晩期の土器群が出土している。遺構としては木の実の貯蔵穴群や土器棺を検出し、また打製石斧・磨製石鎌などの石器類や木製品などの遺物も出土している。

岩田遺跡の場合、その存続年代の期間や遺跡の内容などからある程度安定した状況のなかで営まれた集落遺跡であったことが考えられよう。

以上、広島湾西部を中心に縄文時代後期・晩期と考えられる遺跡を概観してみたが、それ以前の遺跡数に比べて多く確認されており、本遺跡もその一つの類例と考えられる。

#### 参考文献

広島県教育委員会『広島県遺跡地図 I』 1992 年

広島県教育 hon 委員会『広島県遺跡地図 X』 2004 年

広島県教育委員会「郷貝塚」『山陽新幹線建設地内遺跡発掘調査報告』 1973 年

広島県教育委員会『円明寺遺跡発掘調査報告』 1971 年

財団法人広島県埋蔵文化財調査センター『郷貝塚発掘調査報告書』 1986 年

廿日市町『廿日市町史』通史編 1988 年

五日市町『五日市町誌』上巻 1974 年

広島市『新修広島市史』第一巻 1961 年

山口県『山口県史』資料編 考古 I 2000 年

中越利夫「大野瀬戸周辺の遺跡・遺物(1)」『内海文化研究紀要』23 1995 年

中越利夫「大野瀬戸周辺の遺跡・遺物(2) - 宮島町上室浜遺跡採集の石鎌」『内海文化研究紀要』24 1996 年

中越利夫「大野瀬戸周辺の遺跡・遺物(4) - 広島湾岸における縄文時代遺跡の地域構造的分析」『内海文化研究紀要』26

1997 年

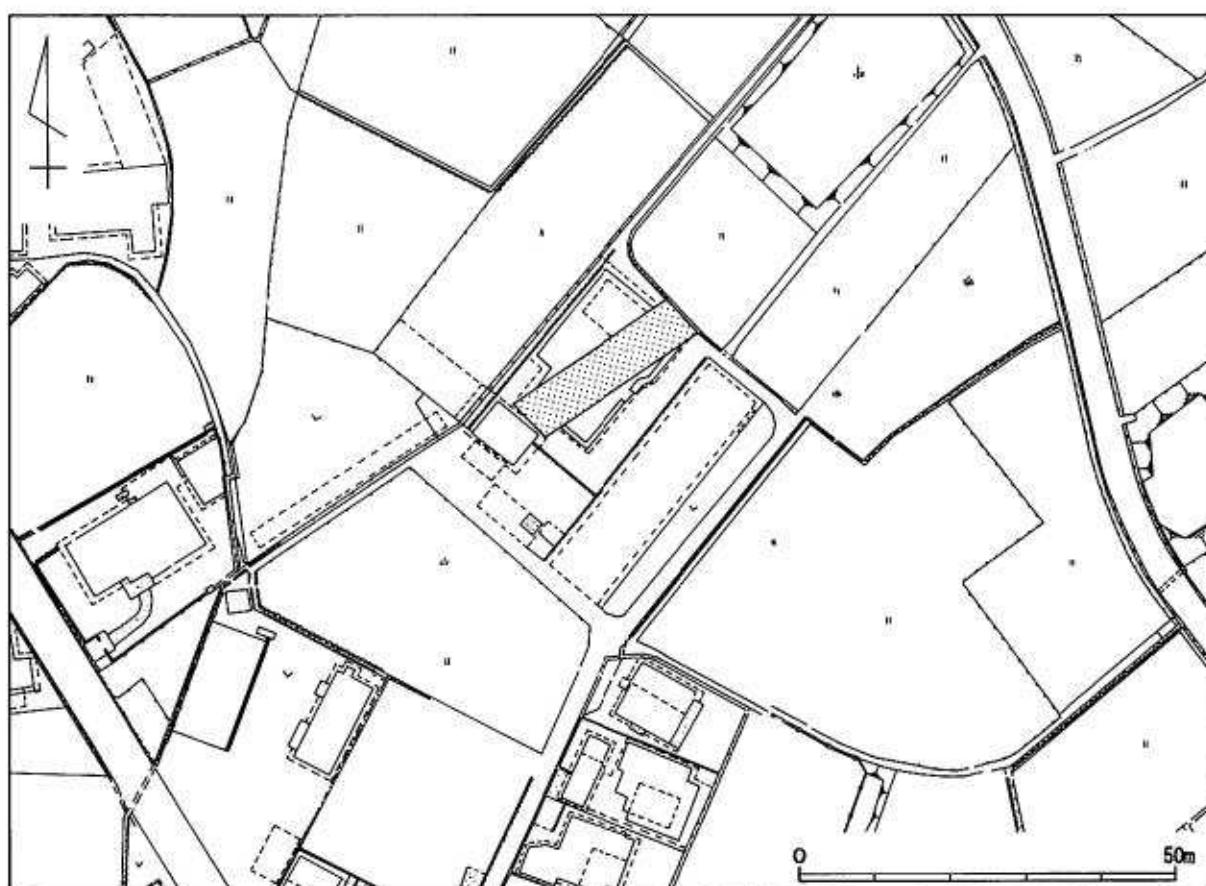
### III 調査の概要

大野郷遺跡は、今回の土地区画整理事業に伴って、近年遺跡及びその周辺部を含めて広範囲に埋立・造成が行われており、旧状を想起することは困難な状況を呈していた。ただし、調査区の掘り下げ及びその土層観察からかつて旧耕作土や床土が存在したことを確認したことから、ある時点までは耕作地として土地利用されていたことが窺えた。

調査は試掘成果に基づき、縄文時代の遺物包含層である黒褐色粘質土層上面まで重機を使用して掘り下げ、それより下層については人力による掘り下げを実施した。

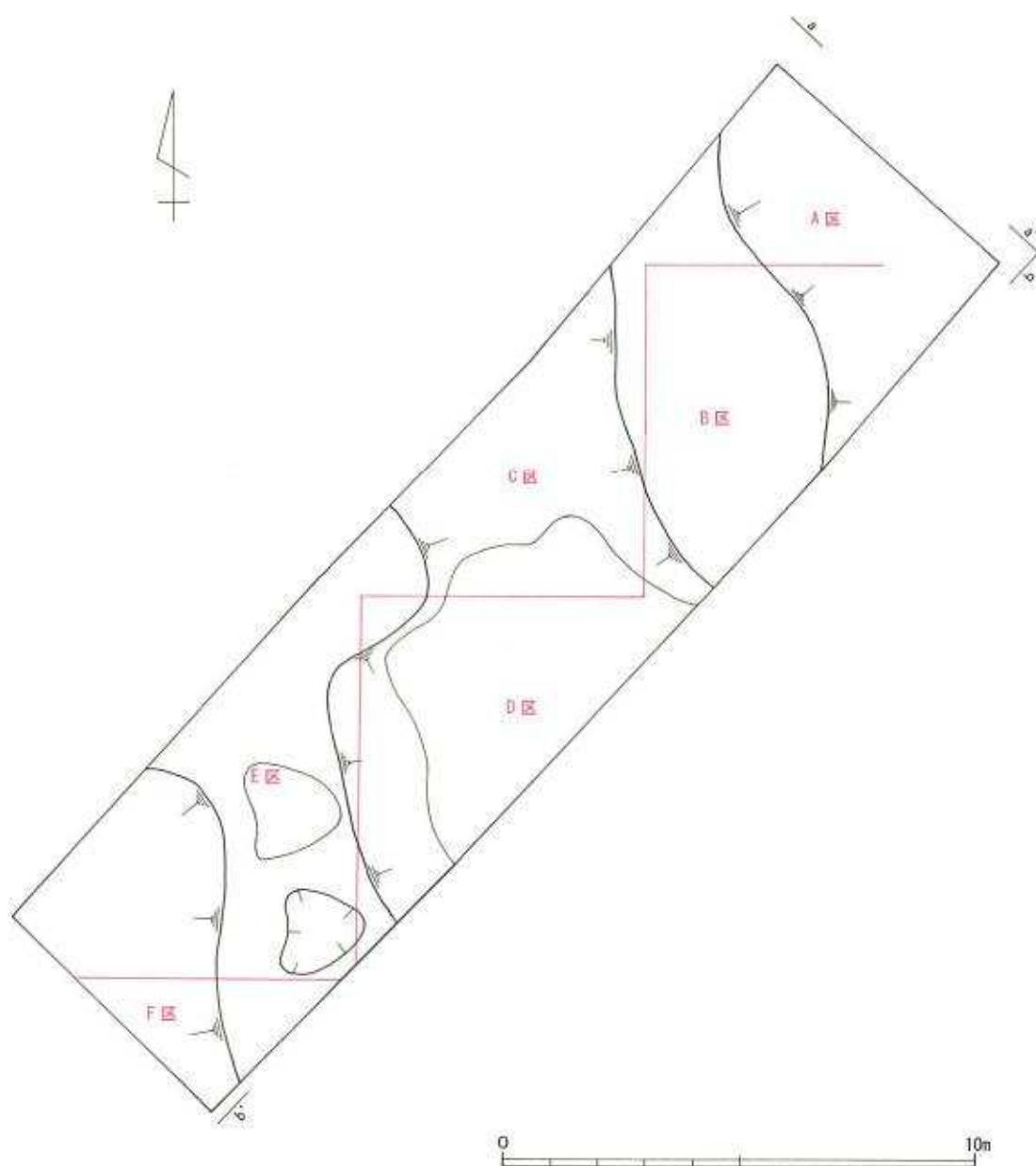
その結果、旧耕作土・床土層の下層には約1mの厚さの灰褐色砂質土層を確認し、その直下に縄文時代の遺物包含層を検出した。この砂質土層については、昭和20年に当該地域で発生した水害時の流出砂であり、当時の災害の甚大さを窺い知ることができた。

縄文時代の遺物包含層は現標高約2mを測る地点にあり、厚さは20~50cmほどで、縄文時代晚期前半を主体とした精製土器・粗製土器などの土器類及び石鏸・石錘などの石製品を包含することが明らかとなった。また、遺物包含層の下層は黄褐色の花崗岩バイラン土の地山で、この部分からはかなりの水量の湧水が認められた。

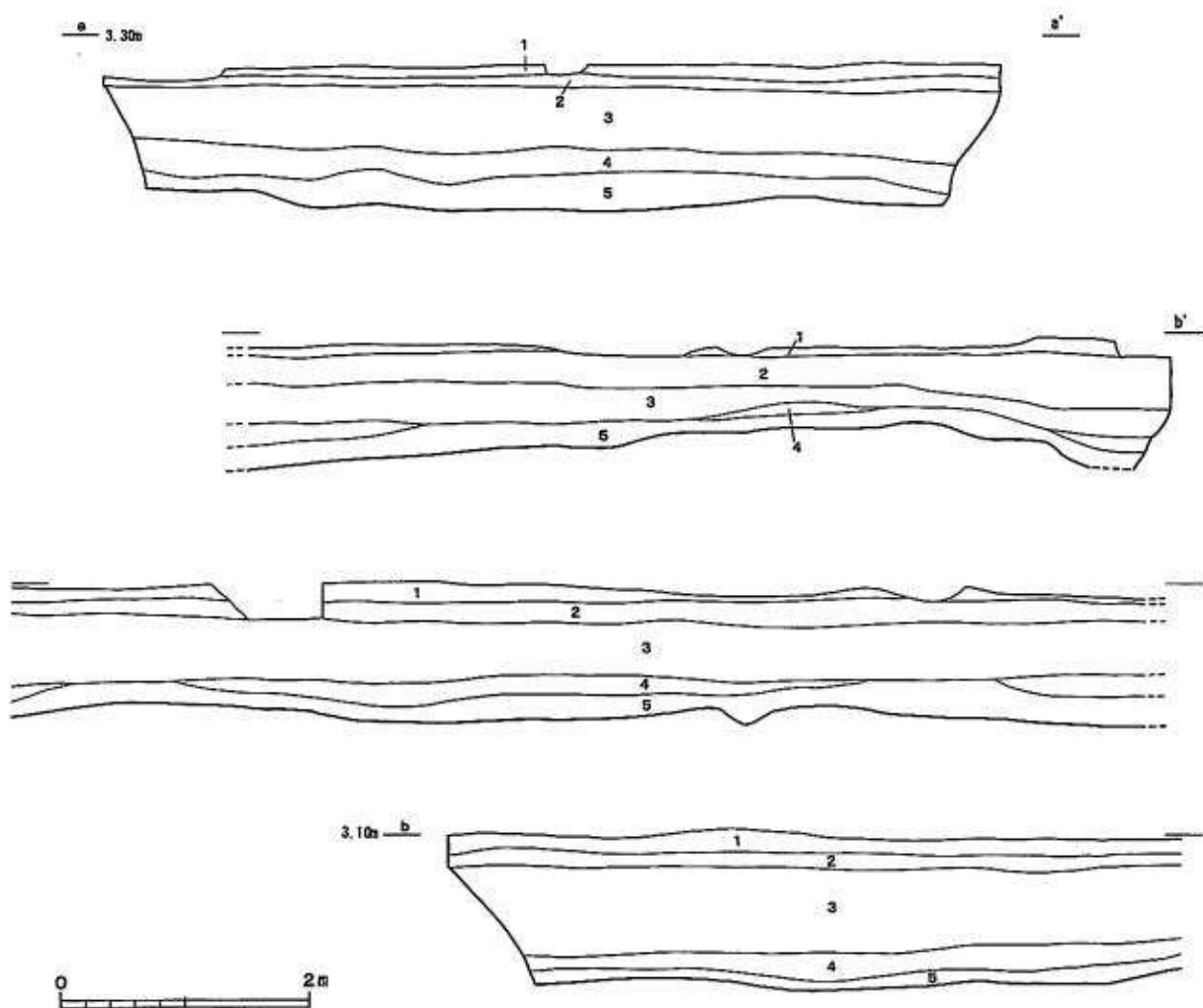


第2図 調査区位置図 (1:1,000) (アミ目・調査区)

なお、戦後以降の堆積土中には戦後に構築された井戸遺構などが検出されるとともに、江戸期以降の陶磁器類などの遺物が見受けられたが、縄文時代の遺物包含層中からは同時期に所属すると考えられる遺構は一切検出できなかった。



第3図 遺物包含層上面検出図 (1:150)



#### 土層説明

1 : 旧耕作土    2 : 旧床土    3 : 灰褐色砂質土（土石流跡）    4 : 黒褐色粘質土（縄文時代遺物包含層）    5 : 暗黒褐色粘質土（縄文時代遺物包含層）

第4図 調査区土層断面図 (1:60)

## IV 出土の遺物

今回発掘調査を実施した区域内では上層の近・現代の遺物包含層中から近世以降の陶磁器類や井戸造構に伴って井側などの木製品が出土した。また、その下層に当たる縄文時代の遺物包含層（黒褐色砂質土・暗黒褐色砂質土）からは、縄文時代晚期前半を主体とした縄文土器（精製土器・粗製土器）などの土器類のほか、石鏃、石錐、磨石、剥片などの石器類が出土した。

### 1 土器類（1～33）（第5～8図、図版4～6）

#### 縄文土器（1～31）

縄文土器は晚期前半頃のものを主体としており、総量はコンテナ(中)で6箱出土した。これらの土器類の器面はさほど摩滅することがないことから、土器の移動が考えられたとしても、さほど長い距離を移動したとは考えがたい。

一方、出土土器は大きく精製土器、粗製土器、その他の土器（無文土器）とに大別でき、個々の出土比率はおおよそ1：4：1である。また、それぞれの土器の器種構成としては、精製土器では浅鉢形を呈するものが大半で、粗製土器には鉢形、甕形、楕円形の土器と考えられるものがある。また、無文土器については細片が多く、今回図示はしていないものの、甕形を呈すると思われる。

精製土器（1～12・26・27） 1～12は浅鉢形土器と思われるものである。いずれも胎土は細砂粒を少量含み、また金雲母を含むものが比較的多く確認できる。調整は内外面ともに丁寧にミガキが施されている。

1は口縁部が波状を呈するもので、口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。口端部については欠損しているため不明である。口縁部直下に3条のヘラ描きの沈線を廻らせる。2～4は体部中央から強く屈曲して外湾しながら外上方に延び、口端部はわずかに屈曲して短く上方に延びる。

5～8は体部上方で「く」字状に屈曲し、口縁部は外反して外上方に延びる。9・10は頸部で「く」字状に屈曲し、口縁部は外反して外上方に延びる。11・12の口端部は短く上方に延びる。

26・27は器種については明確ではないが、26の体部外面には格子目状のヘラ描き沈線を施す。27は体部から口縁部にかけて内傾し、口縁部には焼成前に外面から内面に穿った円孔がある。

粗製土器（13～25・28～31） 13～18は鉢形土器で、いずれも土器の最大径が口縁部にある。13～15は小型のもの、16～18は体部がやや深めのものである。13・14・18は直立気味に立ち上がる体部上半から口縁部にかけて緩やかに外反し、外上方に延び、端部はやや丸く收める。15・17はやや外方に開く体部上半から緩やかにカーブして口縁が外上方に延び、端部はやや矩形を呈する。

19～23は甕形土器と考えられる。いずれも頸部から口縁部にかけて緩やかに外反して外上方に短く延びて口端部となる。28～31は底部で、上底気味となるものが多い。24・25は浅い楕円形を

呈するものと考えられる。

粗製土器の器面調整は、いずれも巻貝あるいは二枚貝の縁辺部による条痕で、内外面ともに施すものと、一面のみに施すものなどが認められ、また一部には調整を施した後ナデ調整を施し、条痕を消しているものなどもある。

#### 土師器（32・33）

32は試掘時に出土したもので、小型の丸底壺のほぼ完形品である。体部はほぼ球形を呈し、底部はわずかに残す。口縁部は頸部から緩やかに内湾しながら上方に延び、端部は矩形を呈する。調整は口縁部内外面ナデ、体部から底部にかけて外面は主に斜方向の刷毛調整、内面はヘラ削りである。

33は甕形土器で、口縁部は頸部から緩やかに外反して外上方に延びる。口縁部の内外面はナデ、体部は内外面ともミガキを施している。

## 2 石器類（34～40）（第8図、図版6）

石器類としては石鎌2点、石斧2点、石錐2点、磨石7点、剥片など約90点が出土した。これらの石材については、凝灰岩質のものが多く全体の約74%を占めるほか、剥片ではあるものの姫島産の黒曜石が約19%を占める。凝灰岩質のものについては、石材の産地を特定はできないものの、凝灰岩自体が県内では比較的広範囲に分布していることから、遺跡の周辺部から調達したものと考えられる。

一方、石器類のうち剥片が占める割合が高い傾向にあり、土器と同様にこれらの遺物を製作した集落の母体が近接して存在することが想定できる。

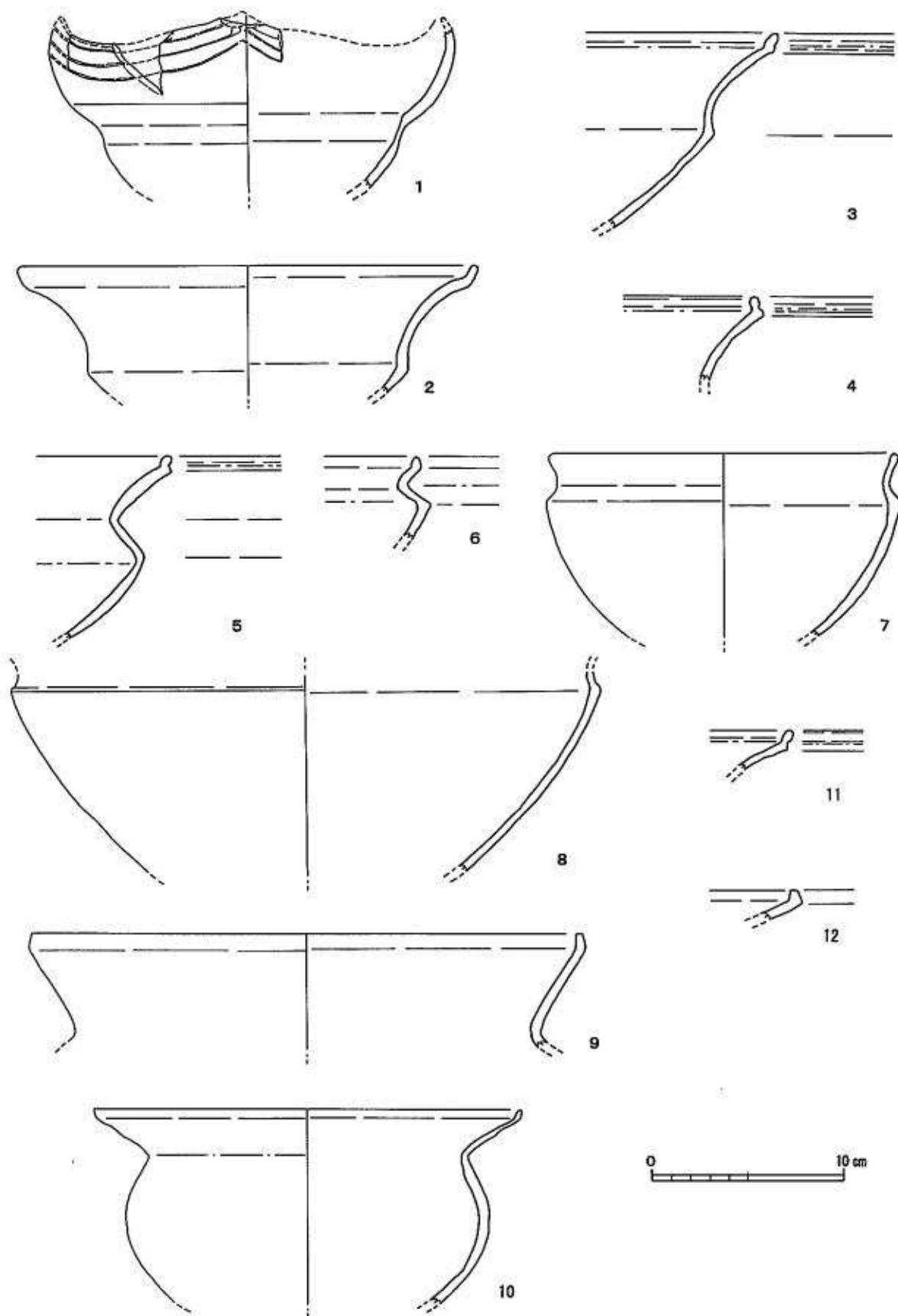
石鎌（34・35）いずれも小型のもので、縁辺部は細かい押圧剥離を施している。35は片方の基部および先端部を欠損している。

磨製石斧（36・37）いずれも磨製の石斧で、刃部はよく磨かれている。

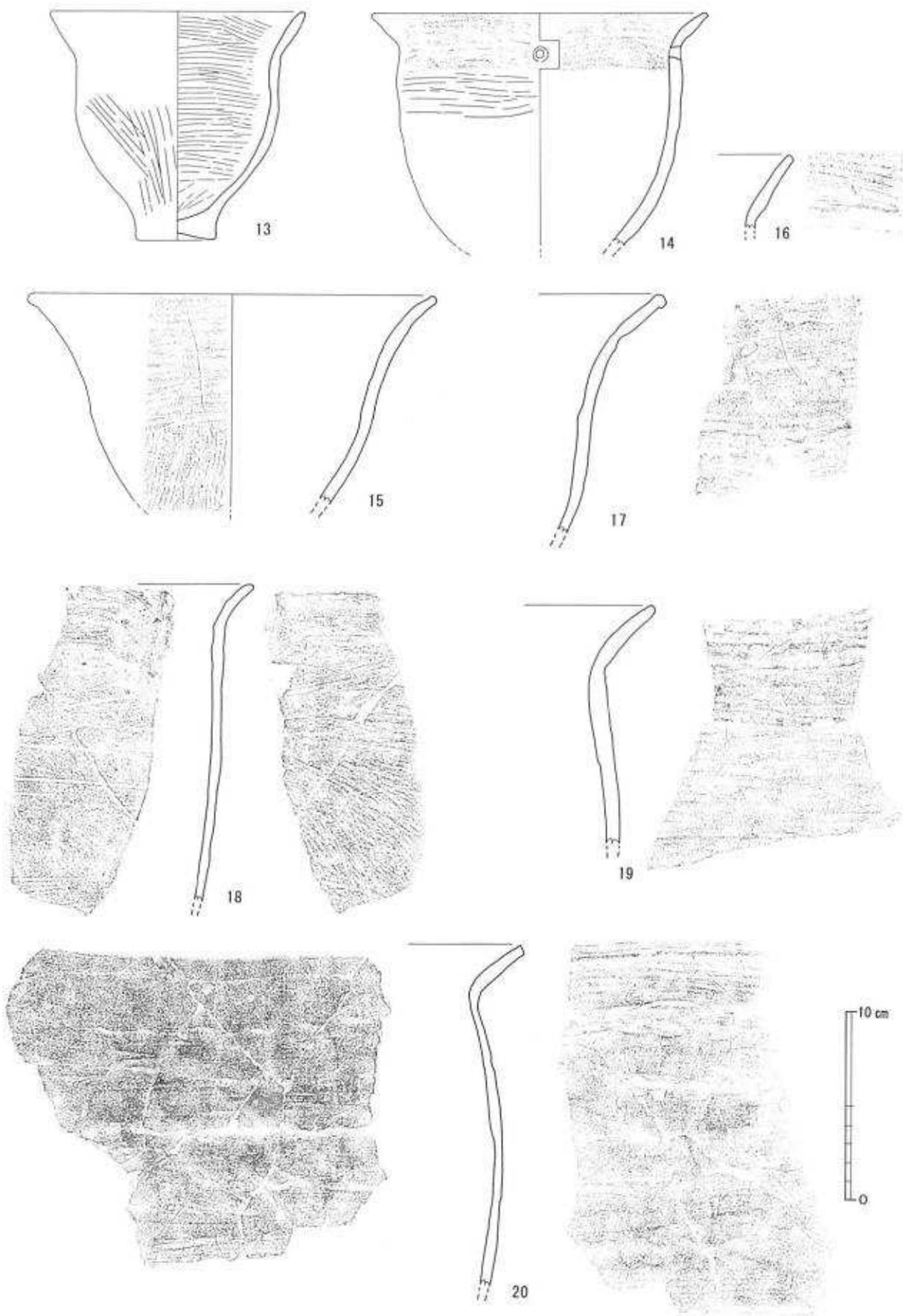
石錐（38）両端中央を打ち欠いて縄掛けのくぼみ部を作り出している。

磨石（39・40）いずれも扁平な面はよく磨かれており、縁辺部には打痕が認められる。

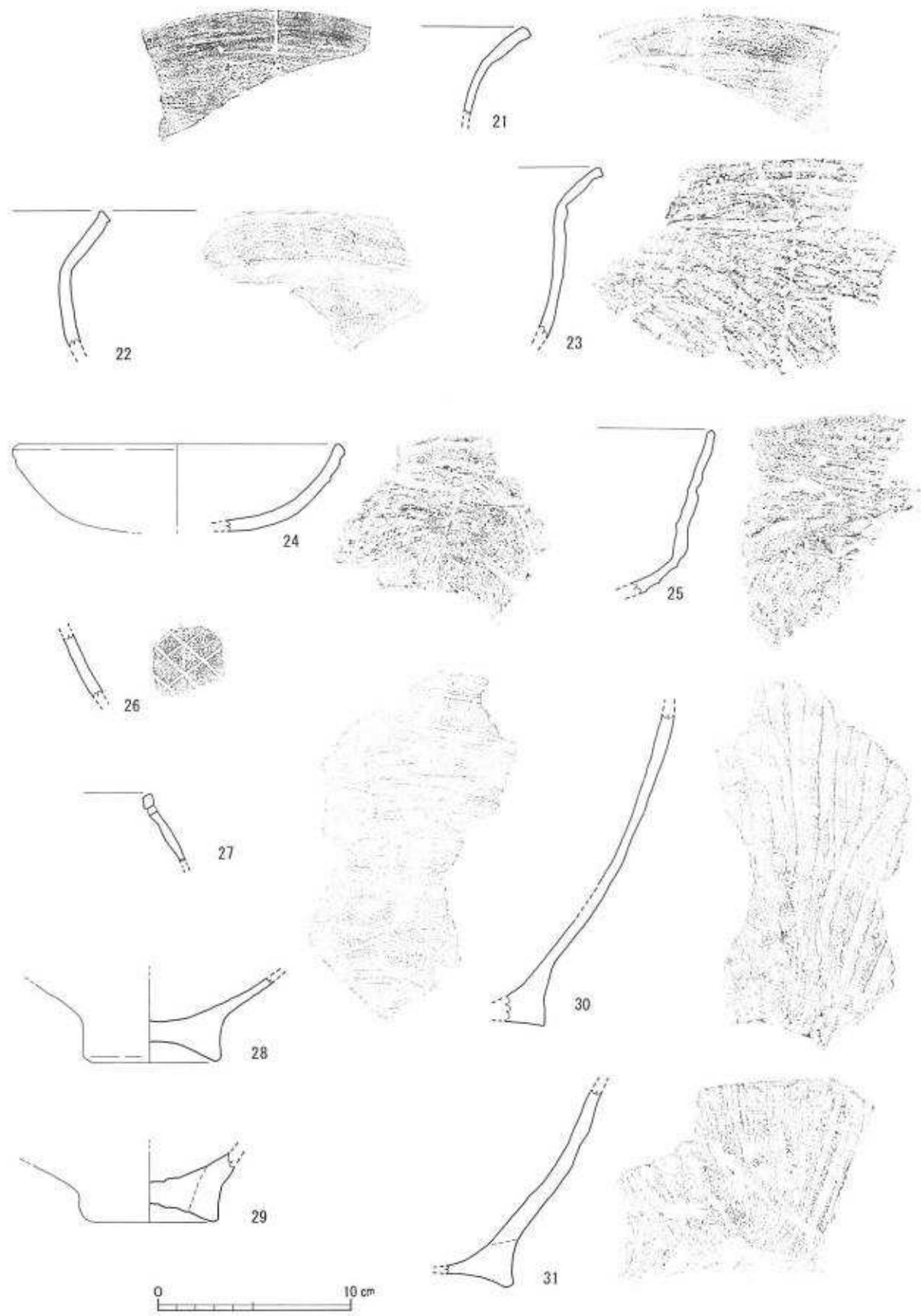
剥片 3cm以上の大以上の剥片のほか、1cm以下のものが比較的多く含まれている。その他、やや大型の剥片の縁辺を剥離した刃器状のものがある。



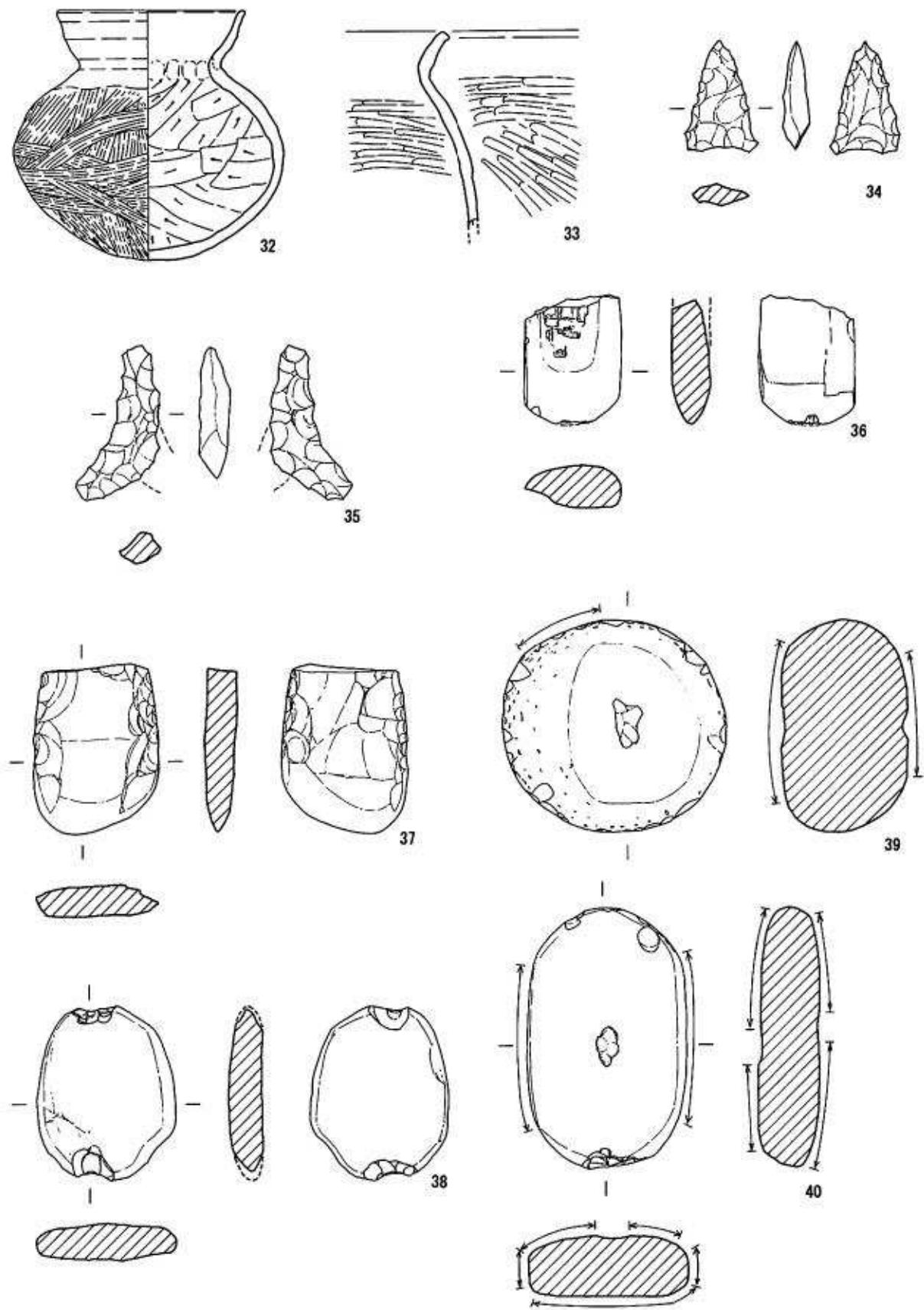
第5図 出土遺物実測図1 (1:3)



第6図 出土遺物実測図2 (1 : 3)



第7図 出土遺物実測図3 (1:3)



第8図 出土遺物実測図4 (32・33, 36~40-1 : 3, 34・35-1 : 1)

第1表 大野郷遺跡出土遺物観察表1(土器類)

番号	地区名	種別・器種	部 位	法量(cm)	焼成	胎 土	調 整	色 調	備考
1	B-4層	縄文土器 浅鉢 精製	口縁～体部	口径:(20.0) 残高:9.0	良好、堅硬	細砂粒を含む、精緻	外面:ヘラ磨き 内面:ヘラ磨き	外面:暗茶褐色 内面:暗茶褐色	波状口縁部、外面白縁部直下に3 条の次線を認らす
2	試掘	縄文土器 浅鉢 精製	口縁～体部	口径:(24.0) 残高:6.5	良好	砂粒を多含	外面:ヘラ磨き 内面:ヘラ磨き	外面:黒褐色+暗茶褐色 内面:黒褐色+暗茶褐色	
3	B-4層	縄文土器 浅鉢 精製	口縁～体部	口径:— 残高:10.0	良好、堅硬	細砂粒を含む、精緻 金雲母を含む	外面:ヘラ磨き 内面:ヘラ磨き	外面:淡茶褐色 内面:淡茶褐色	口唇部の一部にスス付着
4	—	縄文土器 — 精製	口縁部	口径:— 残高:—	良好、堅硬	細砂粒を含む、精緻 金雲母を含む	外面:ヘラ磨き 内面:ヘラ磨き	外面:暗茶褐色 内面:黒褐色	
5	B-4層	縄文土器 浅鉢 精製	口縁～体部	口径:— 残高:9.5	良好、堅硬	細砂粒を含む、精緻 金雲母を含む	外面:ヘラ磨き 内面:ヘラ磨き	外面:黒褐色 内面:黒褐色	外面口縁端部に凹線1条を認らす 体部中央がく字状に強く屈曲
6	D-4層	縄文土器 浅鉢 精製	口縁～体部	口径:— 残高:—	良好、堅硬	精緻	外面:ヘラ磨き 内面:ヘラ磨き	外面:淡茶褐色 内面:黒褐色	
7	B-4層	縄文土器 浅鉢 精製	口縁～体部	口径:(17.8) 残高:9.5	良好	細砂粒を含む、精緻	外面:ヘラ磨き 内面:ヘラ磨き	外面:暗茶褐色 内面:暗茶褐色	
8	B-4層	縄文土器 浅鉢 精製	体部	口径:— 残高:—	良好、堅硬	細砂粒を含む、精緻	外面:ヘラ磨き 内面:ヘラ磨き	外面:茶褐色 内面:茶褐色	外面の一部に鉄分付着
9	B-4層	縄文土器 — 精製	口縁部	口径:(28.7)	良好、堅硬	細砂粒を含む、精緻 金雲母を含む	外面:ヘラ磨き 内面:ヘラ磨き	外面:暗茶褐色 内面:黒褐色	
10	B-4層	縄文土器 浅鉢 精製	口縁～体部	口径:(22.3) 残高:10.1	良好	細砂粒を含む、精緻	外面:ヘラ磨き、口縁部横ナデ 内面:ヘラ磨き、口縁部横ナデ	外面:暗茶褐色 内面:黒褐色	
11	E区	縄文土器 浅鉢 精製	口縁部	口径:— 残高:—	良好、堅硬	細砂粒を少量含む、精緻	外面:ヘラ磨き 内面:ヘラ磨き	外面:黒褐色 内面:黒褐色	一部に鉄分付着
12	B-4層	縄文土器 — 精製	口縁部	口径:— 残高:—	良好、堅硬	精緻、金雲母を含む	外面:ヘラ磨き 内面:ヘラ磨き	外面:淡茶褐色 内面:黒褐色	
13	B-4層	縄文土器 鉢 粗製	口縁～底部	口径:(13.6) 残高:12.2	良好	細砂粒を含む、金雲母を少量含む	外面:口縁部及び底部ナデ、 体部斜位の条痕 内面:横位又は斜位の条痕	外面:橙褐色 内面:橙褐色	外面に焼成時の黒斑あり
14	B-4層	縄文土器 鉢 粗製	口縁～体部	口径:(18.1) 残高:12.5	良好?	細砂粒を多含、金雲母を含む	外面:口縁部横位の条痕、 体部不明 内面:口縁部横位の条痕、 体部条痕ナデ	外面:暗茶褐色 内面:暗茶褐色	外面から内面にかけて焼成後の 円孔あり
15	E区	縄文土器 鉢 粗製	口縁～体部	口径:(21.9) 残高:11.0	良好	細砂粒を含む、精緻	外面:口縁部～体部横位の条痕、 体部下半横位の条痕 内面:口縁部ナデ、 体部横位の条痕後ナデ	外面:橙褐色 内面:橙褐色	
16	B-4層	縄文土器 鉢 粗製	口縁部	口径:— 残高:—	良好	砂粒を多含	外面:横位の条痕 内面:横位の条痕後ナデ	外面:暗茶褐色 内面:黒褐色	
17	B-4層	縄文土器 鉢 粗製	口縁～体部	口径:— 残高:—	良好	細砂粒を多含	外面:横位の条痕 内面:横位の条痕後ナデ?	外面:暗茶褐色+黒褐色 内面:暗茶褐色	
18	B-4層	縄文土器 鉢 粗製	口縁～体部	口径:— 残高:—	良好	細砂粒を含む	外面:口縁部ナデ、 体部横位の条痕 内面:口縁部ナデ、 体部横位の条痕	外面:茶褐色 内面:暗茶褐色	外面の一部にスス付着
19	B-4層	縄文土器 型? 粗製	口縁～体部	口径:— 残高:—	良好	細砂粒を含む、金雲母を含む	外面:口縁部ナデ、 体部軽かい条痕 内面:口縁部ナデ、 体部条痕後ナデ?	外面:暗茶褐色 内面:暗茶褐色	外面の一部にスス付着
20	B-4層	縄文土器 型? 粗製	口縁～体部	口径:— 残高:—	良好	細砂粒を含む、金雲母を含む	外面:口縁部横位の軽い条痕、 体部横位の条痕 内面:口縁部ナデ、 体部横位の条痕	外面:暗茶褐色 内面:暗茶褐色	
21	B-4層	縄文土器 型? 粗製	口縁部	口径:— 残高:—	良好	細砂粒を含む、金雲母を含む	外面:横位の条痕 内面:横位の条痕	外面:淡茶褐色 内面:淡茶褐色	
22	D-4層	縄文土器 型? 粗製	口縁～体部	口径:— 残高:—	良好	細砂粒を含む	外面:口縁部横位の条痕、 体部ナデ 内面:ナデ	外面:淡茶褐色 内面:淡茶褐色	
23	B-4層	縄文土器 型? 粗製	口縁～体部	口径:— 残高:—	良好	細砂粒を含む、金雲母を含む	外面:口縁部横位の条痕、 体部横位及び斜位の条痕 内面:ナデ	外面:茶褐色 内面:暗茶褐色	
24	B-4層	縄文土器 碗 —	口縁～体部	口径:(16.6) 残高:4.6	良好	細砂粒を多含	外面:口唇部ヨコナデ、 体部横位の条痕 内面:口唇部ヨコナデ、体部ナデ	外面:暗茶褐色 内面:淡茶褐色	
25	B-4層	縄文土器 碗 —	口縁～体部	口径:— 残高:—	良好	細砂粒を多含	外面:口唇部ナデ、 体部斜位の条痕 内面:口唇部ナデ、 体部横位及び斜位の条痕	外面:暗褐色 内面:茶褐色	
26	C-4層	縄文土器 — 精製	口縁部?	口径:— 残高:—	良好	砂粒を多含	外面:ナデ? 内面:ナデ?	外面:暗褐色 内面:暗褐色	外面に格子目状のヘラ磨き沈線

27	C-4層	縄文土器 一 精製	口縁～体部	口径：一 残高：一	良好	細砂粒を含む	外面：ミガキ？ 内面：ナデ	外面：暗茶褐色 内面：暗茶褐色	外面から内面にかけて焼成前の 円孔あり
28	D-4層	縄文土器 鉢 粗製	底部	底径：6.6	良好	砂粒を多含、金雲母を含む	外面：横位の条痕、底部ナデ 内面：横位の条痕	外面：暗茶褐色 内面：暗茶褐色	
29	B-4層	縄文土器 鉢 粗製	底部	底径：7.4	良好	砂粒を多含	外面：横位の条痕、底部ナデ 内面：一	外面：淡茶褐色 内面：淡茶褐色	小型の底部を成形した後、粘土紐 を巻いて底部とする
30	B-4層	縄文土器 鉢 粗製	体部～底部	口径：一 残高：一	良好	細砂粒を含む、金雲母を含む	外面：横位の条痕、 内面：横位の細かい条痕	外面：暗茶褐色 内面：暗茶褐色+暗茶褐色	
31	B-4層	縄文土器 鉢 粗製	体部	口径：一 残高：一	良好	砂粒を含む、金雲母を含む	外面：横位の条痕、底部ナデ 内面：横位の条痕、底部ナデ	外面：暗茶褐色 内面：暗茶褐色	
32	試掘	土師器 壺	完形	口径：9.8 残高：13.0	良好	細砂粒を含む	外面：口縁～頸部横ナデ、 体部刷毛目 内面：口縁～頸部横ナデ、 体部ヘラ削り	外面：棕褐色 内面：棕褐色	僅かに底部を残す
33	試掘	土師器 壺	口縁～体部	口径：一 残高：一	良好	細砂粒を含む、金雲母を含む	外面：口縁～頸部条痕、 体部横位及び斜位ミガキ 内面：口縁～頸部ナデ、 体部横位ミガキ	外面：茶褐色 内面：茶褐色	一部に鉄分付着

第2表 大野郷遺跡出土遺物観察表2(石器類)

番号	地区名	種別	計測値(cm)			重量(g)	石材	備考
			長さ	幅	厚さ			
34	E-4層	石鎚	2.0	1.3	0.5	0.81	珪質凝灰岩	
35	D-4層	石鎚	2.7	1.0	0.6	1.45	凧石	先端部は尖らない 基部の片側が欠損
36	F-4層	磨製石斧	6.8	5.0	2.0	113.0	熱変成凝灰岩	全面的にミガキ 半折
37	B-4層	半磨製石斧	8.7	6.5	1.6	155.5	凝灰岩	刃部のみミガキ 半折
38	試掘	石鍬	8.9	7.1	1.9	191.0	凝灰岩	
39	E-4層	磨石	11.7	11.0	6.6	1260.0	風雲母花崗岩	広口面：スリ 側面：タタキ
40	F-4層	磨石	13.4	8.3	3.2	590.0	基灰岩	短辺中央に打ち欠き

## V　まとめ

今回発掘調査を行った大野郷遺跡では、縄文時代晚期前半期の包含層を確認することができた。ここでは、遺跡の立地状況や出土遺物等について概観してまとめとしたい。

### 1　遺跡の立地について

大野郷遺跡は、現在遺跡の南東側を流れる永慶寺川の河口付近から約1km北側に奥まった場所に位置している。遺跡周辺には、この永慶寺川をはじめ、中津岡川、毛保川などが北側から流入しており、それらの河川によって沖積地を形成している。

また、遺跡付近では現在標高4m前後で、遺跡の土層観察からも明らかとなったが、戦後直後にこの地域を襲った大水害の土石流が1mほど堆積しており、それ以前の旧地形を現状ではまったく窺い知ることはできない。しかし、縄文時代の遺物包含層はこの土石流の下の標高2m付近で確認されており、戦前においては旧表土に近い地点に遺物包含層が存在していたと考えられる。

ところで本遺跡で確認された縄文時代晚期前半期の汀線がどのような状況にあったかは明確ではないが、大野町やその周辺部における縄文時代全般の遺跡のあり方を見てみると、対岸の宮島町内では数箇所で遺跡が確認されている。これらの遺跡はいずれも現在の汀線に接近する箇所であり、宮島の地形自体が汀線まで山塊が接近し、沖積地をほとんど形成しないという自然地形に制約された結果と考えられる。また、廿日市市に所在する地御前南遺跡も同様な立地である。

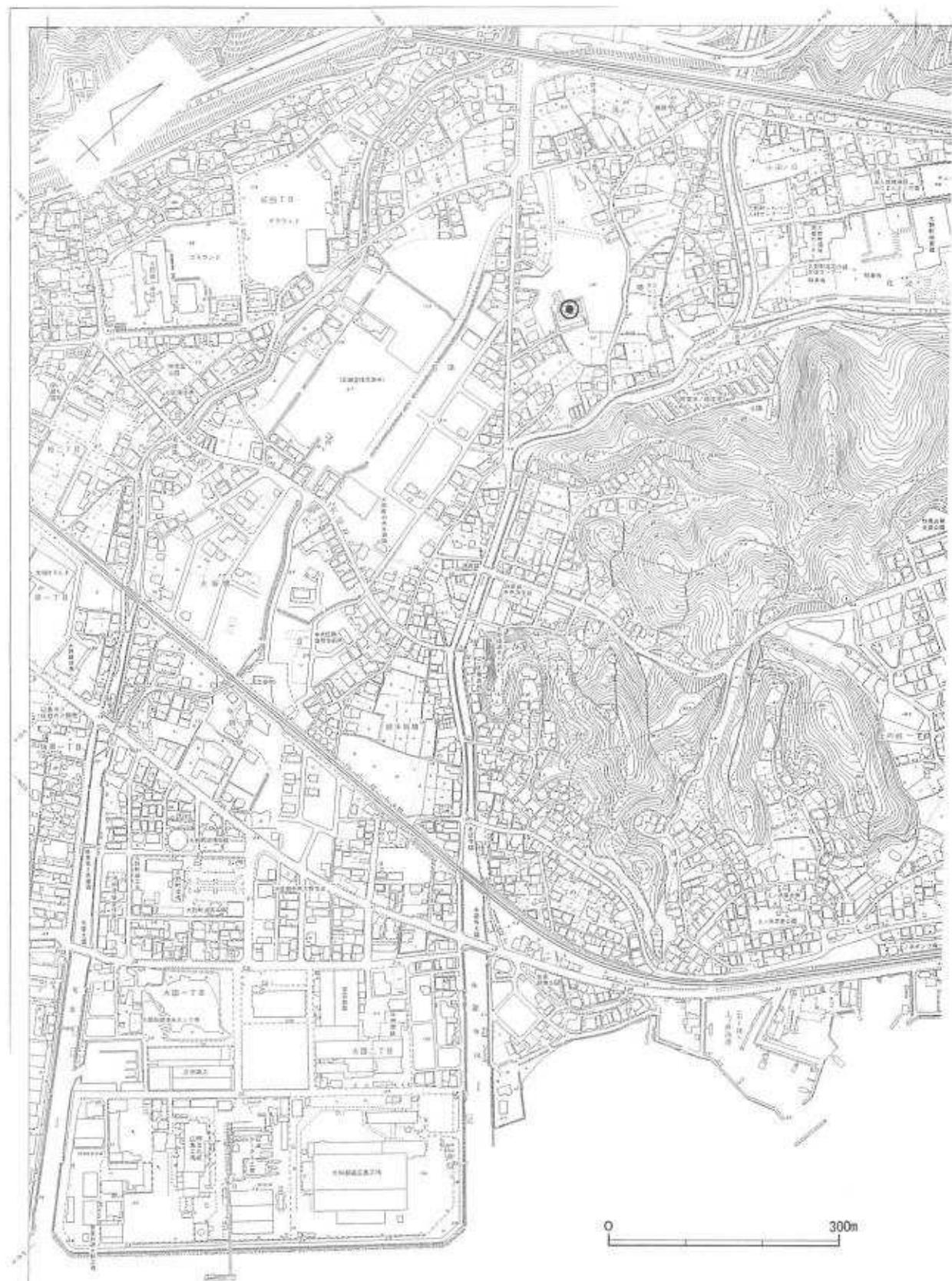
一方、本遺跡をはじめ、旧廿日市市内で確認されている縄文時代の遺跡の中には現在の汀線からかなり内陸部に入った箇所に存在するものなどもあることから、縄文時代の汀線が当地域においても内陸部に入り込んでいた可能性が考えられる。

また、本遺跡出土の遺物観察などから、遺物がそれほどの距離を移動したものとは認めがたく、さらに本遺跡から比較的まとまった状態で石器の剥片が出土したことなどから、本遺跡周辺に遺跡の母体となるべき集落が存在していたと考えられ、本遺跡の周辺部の低位沖積地に当時の汀線に近い箇所を拠点とした集落が形成されていたものと考えられる。

### 2　出土遺物について

今回出土した遺物は晚期前半を主時期とする遺物である。出土土器の器種構成としては浅鉢形土器、鉢形あるいは壺形土器、そのほか碗形を呈するものなど、それ以前の縄文土器が鉢形土器を主体とする器種構成とは異なり、器種の分化が認められる。

また、晚期の特徴として捉えられるように、精製土器と粗製土器が混在している。精製土器は内外面とも丁寧にミガキが施され、胎土も細砂粒を含み精緻なものが多く、金雲母を包含するものも多い。一方、粗製土器は内外面あるいは片面に二枚貝や巻貝によると思われる条痕調整を施すもので、胎土は比較的多くの砂粒を含むものである。



第9図 大野郷遺跡周辺地形図 (1:7,500) (●遺跡位置)

なお、精製土器と粗製土器との土器全体量の中での構成比率を見てみると、おおむね1：4の割合で粗製土器の方が圧倒的に多く含まれている。

このほか、石器類の中には五角形に近似した石鏃や刃部を中心として磨かれた石斧が存在し、また石材として乳白色を呈する大分県姫島産と考えられる黒曜石を含むなどの特徴がみられる。

### 3 小結

今回の大野郷遺跡の発掘調査では、縄文時代晩期前半の遺物包含層を確認した。『位置と環境』で述べたように広島湾岸、特に西湾岸地域においては縄文時代早期から晩期にかけての遺跡が確認されているが、遺跡の内容や遺物の組成など不明な点が多く、また継続的に営まれる遺跡も少ないと考えられる。

ところで、本遺跡と同時期の遺跡としてはその内容が明らかとされている遺跡として、山口県熊毛郡平生町所在の岩田遺跡があげられる。この岩田遺跡は縄文時代中期から弥生時代にかけての遺跡で、その中心的な時代としては縄文後期後半から晩期前半の時期とされ、同遺跡が比較的長い期間安定的に人々が生計を営んでいたことが明らかとなっている。

岩田遺跡は遺跡周辺を流れる河川によって形成された小扇状地と海浜に接した浜堤に立地しており、大野郷遺跡と類似した立地条件を呈する。

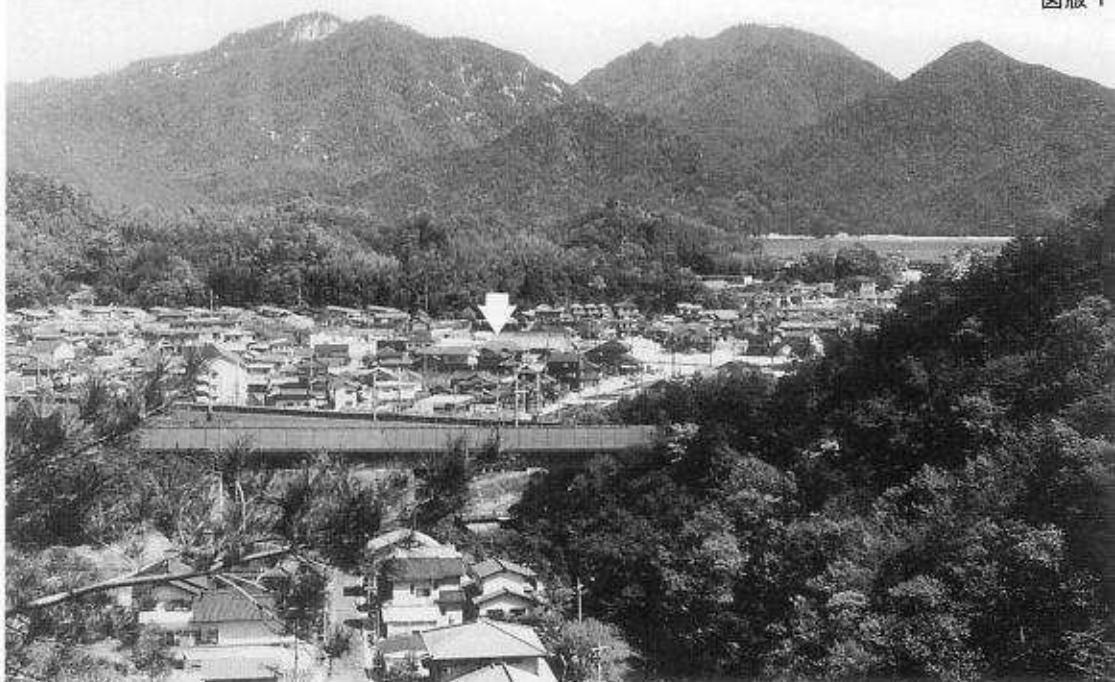
また、同遺跡ではドングリを貯蔵した貯蔵穴群や乳幼児を埋葬したと考えられる甕棺群などの遺構が検出され、出土した遺物としては土器類をはじめ、石器類、装飾品としての玉類、土偶などの呪術品などがある。これらの遺物のうち、晩期前半に属するものでは土器類の器種構成の多様化や精製土器に金雲母を多含すること、また石器類の組成、石器石材として姫島産の黒曜石が使用されるなど本遺跡と内容的に類似する点が多くみられる。

このように本遺跡と同時期の岩田遺跡の状況について概観すると、その内容的に類似する点があることを指摘できる。しかし本遺跡の場合、調査範囲が極めて限定的であることや遺跡本体を調査したのではないため、本遺跡の全体像について言及することは困難である。

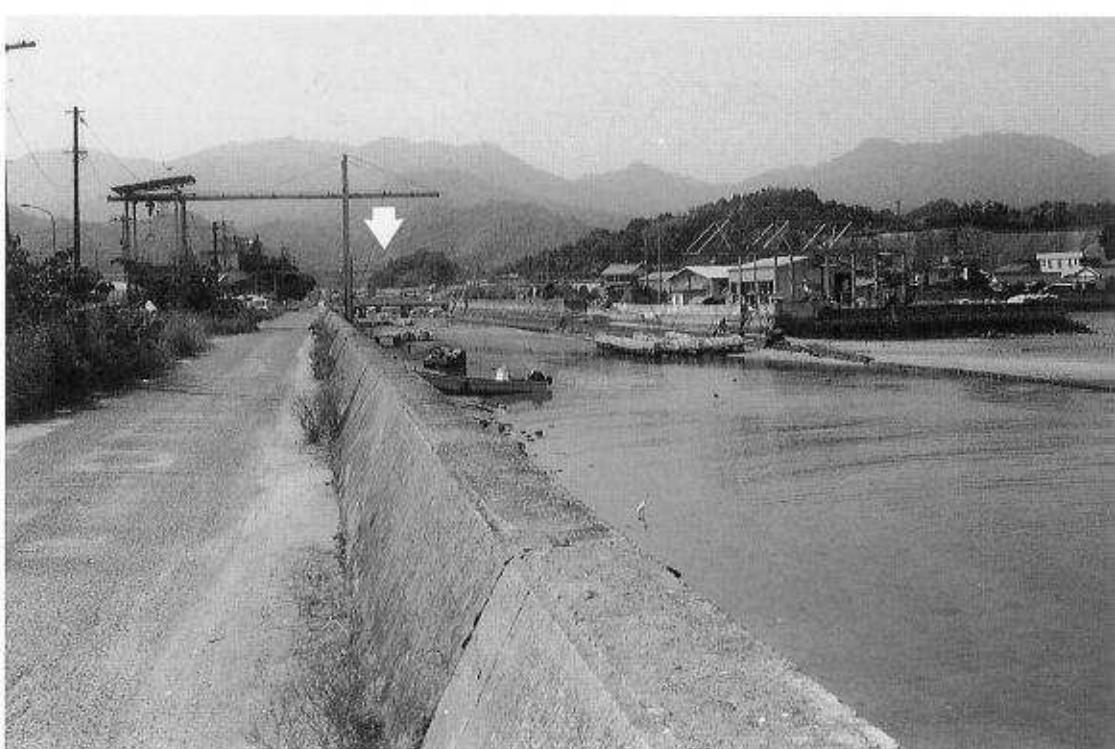
今回の発掘調査では、本地域の縄文晩期の遺跡の立地状況の一端を知りうることができ、今後の当地域における縄文遺跡の探査のあり方にひとつの方向性を示すものとなろう。

### 参考文献

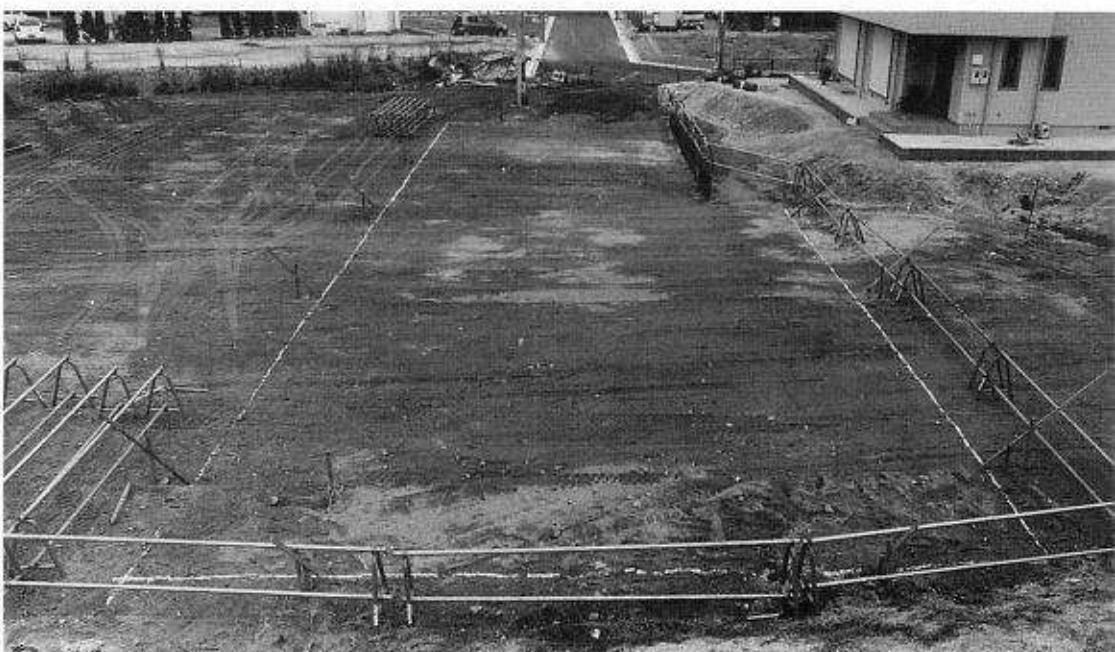
- 潮見 浩 『山口県岩田遺跡出土縄文時代遺物の研究』『広島大学文学部紀要』第18集 1960年  
平生町役場 『平尾町史』 1978年  
山口県平生町教育委員会 『岩田遺跡』 1974年  
廿日市町 『廿日市町史』通史編（上） 1988年  
中越利夫「大野瀬戸周辺の遺跡・遺物（4）－広島湾岸における縄文時代遺跡の地域構造的分析」『内海文化研究紀要』26 1997年



a 遺跡遠景  
(北西から)



b 同上  
(南東から)



c 調査前近景  
(北東から)



a 調査区全景（上層）  
(北東から)



b 同 上（下層）  
(北東から)



c 調査区北東壁  
(南西から)



a 調査区南東壁  
(北西から)

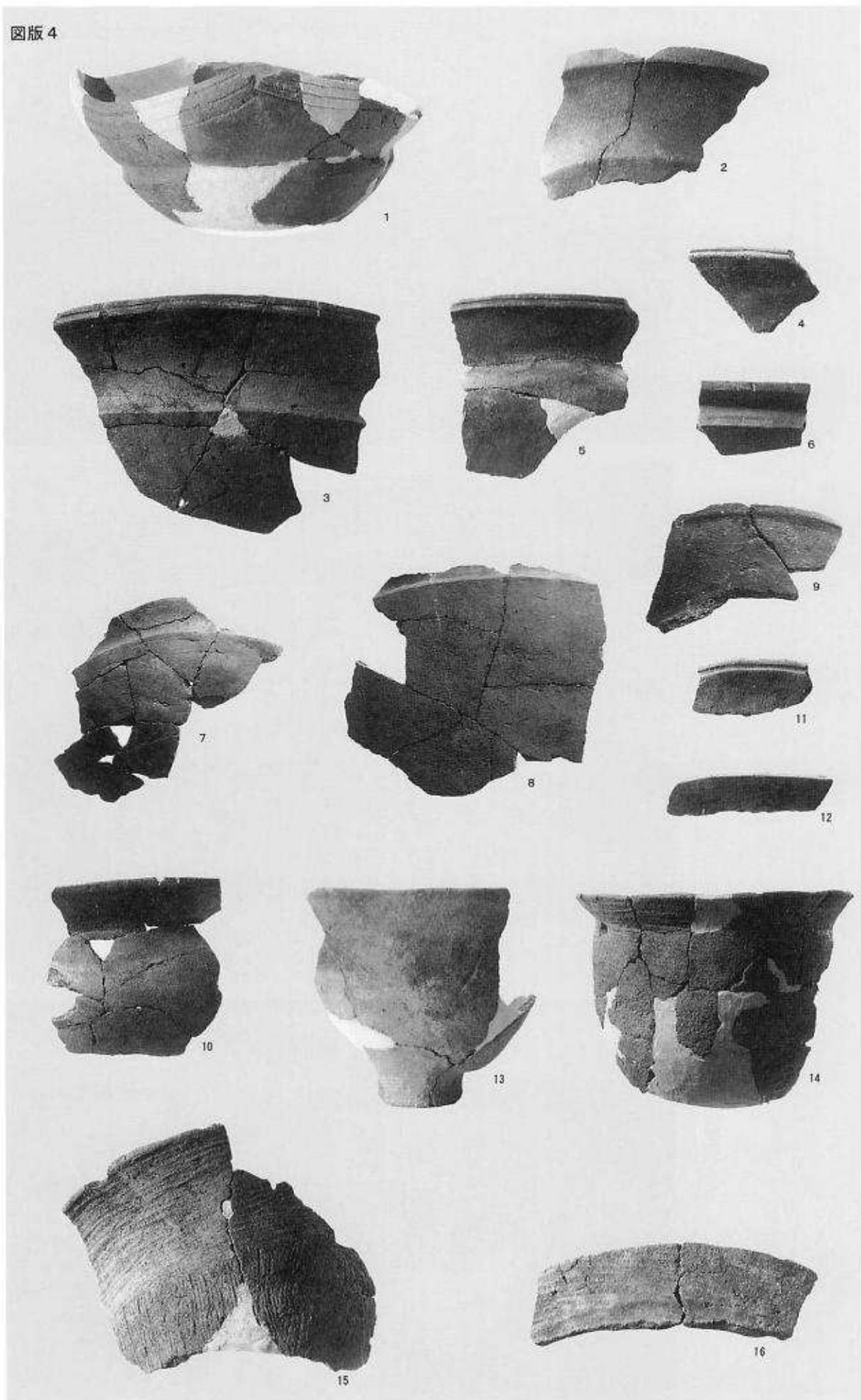


b 同上  
(北西から)

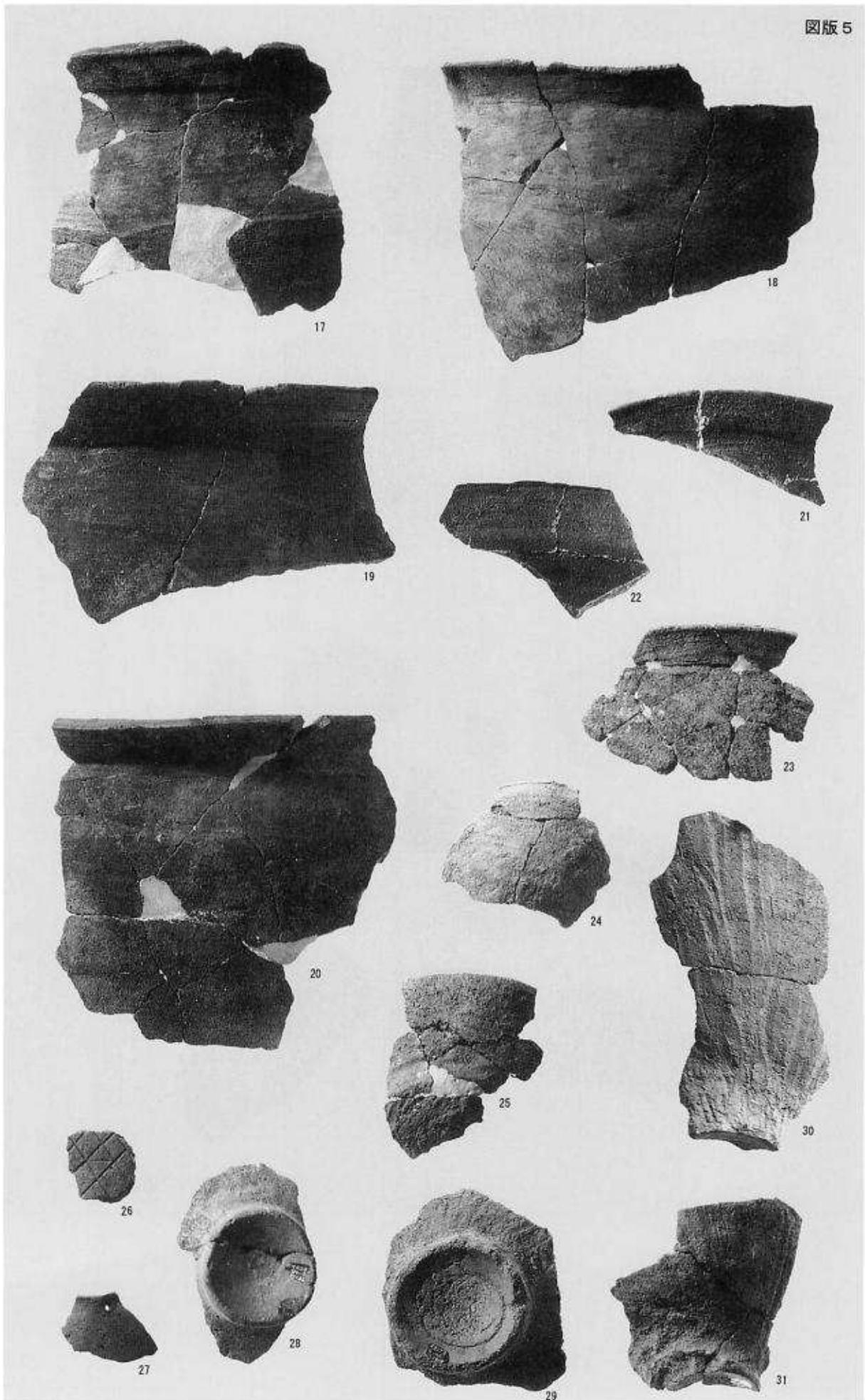


c 調査風景

図版 4

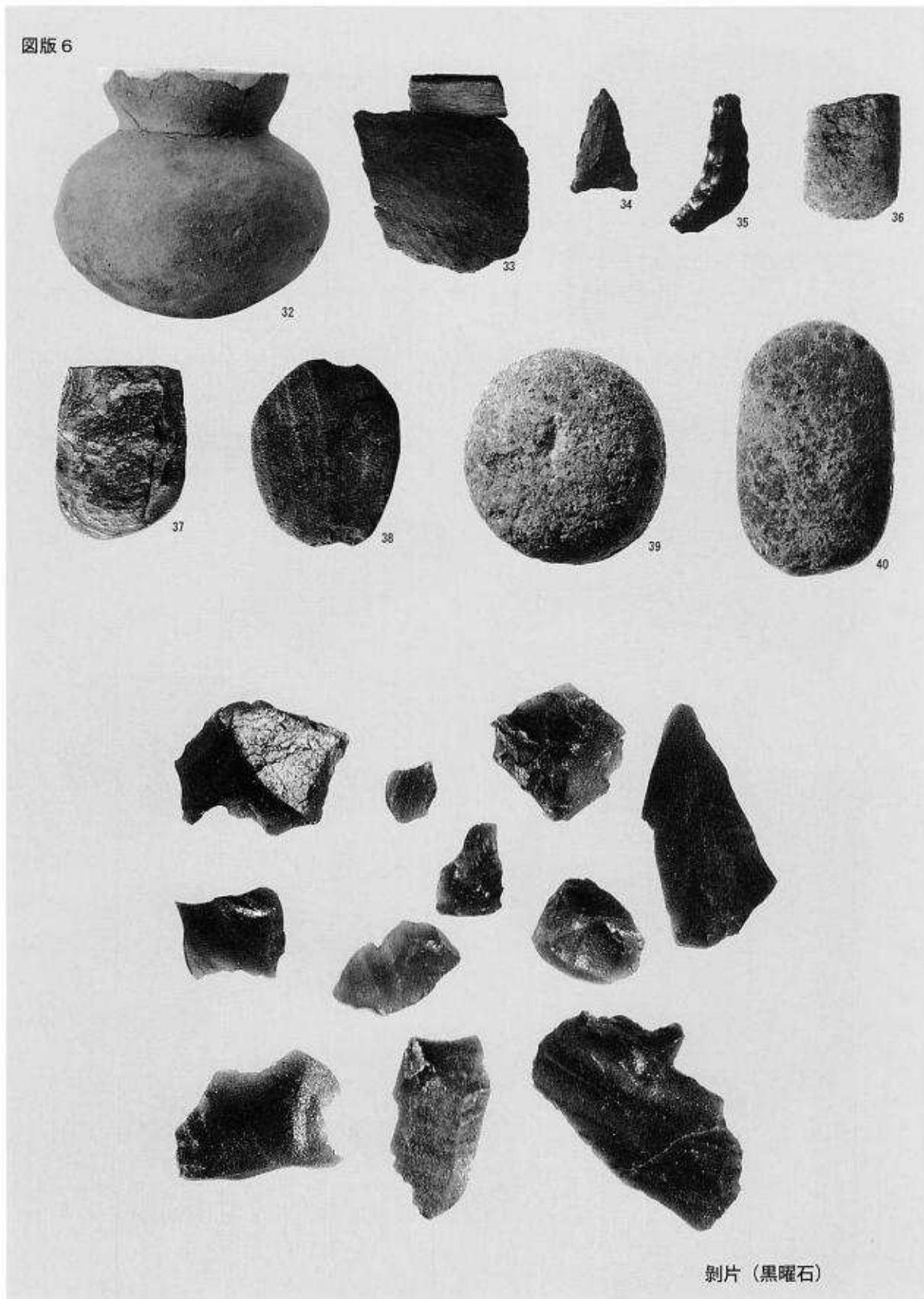


出土遺物 1



出土遺物 2

圖版 6



剥片（黑曜石）

出土遺物 3

## 報 告 書 抄 錄

財団法人広島県教育事業団発掘調査報告書第15集

**大野郷遺跡**

大野町中央地区土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

発行日 平成18(2006)年3月17日

編集 財団法人広島県教育事業団事務局

埋蔵文化財調査室

〒733-0036 広島市西区柳音新町四丁目8番49号

TEL (082) 295-5751 FAX (082) 291-3951

ホームページ <http://hmaibun.d-net.co.jp>

発行 財団法人広島県教育事業団

〒733-0011 広島市中区基町4番1号

TEL (082) 228-8451 FAX (082) 228-8441

印刷所 株式会社 耕文社